

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

学びを通して得られたもの

～思ったときが『始めどき』～

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **夏梅 峰子**

ふとしたことがきっかけで再び福祉について学ぼうと本学への編入を決意し、同時に実務経験も必要だと感じ療養型病院内のデイケアに介護職として転職しました。そうはいつでも学生・仕事・家事の3足のわらじを履いてしまって両立できるのだろうか、勉強する時間を割くことができるのだろうかと非常に不安だったのを覚えています。しかし家族・職場の理解と協力を得られたおかげで小さな一歩を踏み出すことができました。

一歩進んだとはいえ「療養型」と「急性期」の違いも、ましてや介護保険制度についての知識もない素人が、沢山の新しいことを学び理解することは簡単なものではなく、自宅での孤独な学習・レポート作成は苦痛になっていました。自分の中で「仕事が忙しい」「子供と一緒にいてあげたい」などと言いつくり、全く手につかなかった日々もあります。

そんな時にパワーをもらったのがスクーリングです。学習内容は勿論ですが、同じ志を持つ学友との出会いがネガティブな考えをポジティブに変換してくれました。毎日4時半に起きて家事をこなし、30分でも時間をつくり一行でもレポートを書くことを地道に続けました。卒業できなければ国家試験に合格しても無効になってしまうため、単位修得を先決にして実際に国家試験の受験対策に入ったのは11月からです。今年の冬は例年になく大雪で、毎日の雪かきが日課となり勉強する気力を持続させることのほうが受験勉強よりも大変でした。

実習での学び

実習先は勤務先と同様に通所介護（デイサービス）を選択し、利用者様

との結びつき・関わり方・社会福祉士としての視点や立場・役割の理解を目標に挙げました。実習内容は、主に介護職の方々と同様の業務で利用者様との信頼関係を構築し、その中で相談員としての視点、アプローチなどを指導していただき、社会資源の全体像の把握のために地域包括支援センター・居宅介護支援センターに一日実習という形で関わりました。

相談援助を行う過程は1人の特出した能力が必要なのではなく、組織協働の考えに基づいた支援の方向性を導き出すチームアプローチの重要性、自分の価値観を押し付けず相手のストレングスを発見し、活かしていける・または活かすための支援をどのように行っていくのかを考察すること、利用者本位をどこまで実践していけるのか、実践するために「ヒト」を理解しようとする気持ちが大切だと感じました。

実習を終えて

実習時間はあっという間なのに、実習記録の記入には思った以上に時間がかかりました。一日の目標を立て、結果を導き明日の目標を立てるだけなのに目標が漠然としすぎていて考察しても答えが出せなかったりすることもありましたが、帰校指導では担当教員や実習中の学友と悩みやそれぞれの実習先の状況報告、問題や不安点を話す機会があったので救われました。実習は○か×の答えを出すのではなく、自分がどう感じ今後どうしていきたいのかを考えるチャンスなのだと思います。

未来に向かって

卒業間近の3月11日、東日本大震災は多くの方々を奪う未曾有の大天災となりました。諸先生方、一緒に頑張ってきた学友の皆様、実習先の職員様方、そして私の実習を応援して下さい利用者様方も被災されてい

らっしゃることでしょう。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

皆様方のお陰で、無事2年間で卒業すること・社会福祉士国家試験に合格することができました。今後は皆様方に少しでも恩返しができるように、本学で学んだ『福祉の心』で復興に向けて自分なりの支援をしていきたいと思っております。共に頑張っていきましょう。

最後まで諦めない、やり抜く精神をくれた東北福祉大学通信教育部に
《合掌》

被災地のお手伝いをしてきました

石巻市の湊地区で家屋の清掃作業ボランティアをしてきました。

作業の内容は、1グループ6人ほどに分かれて、依頼のあったお宅に行き、敷地や家の中に堆積する瓦礫や家財道具を重機で回収しやすいよう道路端に集積するものでした。

その日は風が強く、乾燥した汚泥が粉塵となって市街地に吹き荒れ、目を空けていられないほど。現地に行かれる方は防塵用のマスクやゴーグルは必須アイテムです。

片付けをするときは、厚手の作業用ゴム手袋も必要です。真っ黒いヘド口の中からさまざまな家財道具を選び分けたとき、ガラスの破片が出てきて何度か危うく指を切りそうになりました。壊れた筆筒を運び出すときには側板が外れ、古釘で手の甲を切りそうにもなりました。破傷風の予防接種をしていない場合、傷口が汚染されて感染症の危険があります。厚手のゴム手袋も二重にするとなお安全です。

膨大な瓦礫の中で作業をしていると、気ばかり焦り、無理をして思わぬ事故を招くことがあります。作業の際には、一定のペースで安全を確認しながら作業ができるよう、全体の様子に目を配れる現場監督のようなリーダーの存在は不可欠です。

万一、ボランティアが怪我をしたときの連絡体制、医療体制は万全のようでした。

狭い空間で海水を吸った布団や衣類、鍋や皿を抱えて運び出すため、雨合羽の上下も必須です。津波のため家財の中には秋刀魚などさまざまな魚の腐乱した死骸が混ざり、ドブと干物が混ざったようなにおいては一度体につくとなかなか落ちません（私にとってはヘド口の干潟で釣り餌のゴカイやカニを取って遊んだ頃の懐かしい香りですが）。

ボランティア活動をコーディネートし、ボランティアの送迎や資材の手配を行う運営スタッフのボランティアの存在も不可欠です。

籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人

ボランティアはさまざまなパートでそれぞれの役割を担いながら活動しています。

3週間活動しているというボランティアが、運営スタッフのボランティアに「作業が終わってから仙台にバスが出発するまでの1時間の待機時間が長過ぎる」と抗議する場面がありました。作業終了後、怪我をしていないか各自点検し、怪我をしている場合はかかるべき治療を受けるための時間として1時間は適当に思えました。現地から仙台まで2時間はバスでの移動となるからです。

長期間活動しているボランティアに疲れの色が見えてきています。本来対等であるはずのボランティアに対して指示的になったり、理性的な判断が鈍り、つい感情的に相手を責めてしまいがちです。

作業システムを確立し、ローテーションで次々とボランティアが入れ替わる仕組みづくりや今後の展開を予測しながら戦略を練る頭脳ボランティアも必要です。

全国から集まっている多くのボランティアは、水が出ない状況下でテント生活をしながら活動されています。まだまだ被災地には支援の手が足りません。神戸から来たという青年は、昼食は菓子パン一つだけで黙々と一所懸命に働いていました。「自分のようなものでも何かの役に立ちたい」という献身的な名もないボランティアの姿に、ただただ頭が下がる思いでした。現地に行けば多くの宮沢賢治の詩のような人に出会えます。たったの半日でしたが、機会があれば今度は被災された方々のメンタル支援を行う専門ボランティアのお手伝いをしたいです。

(通信教育部 Y.O)

石巻市海岸部にお住まいの通信教育部学生の方1名が、小学生のお子様2名とともに宮城県警発表の死亡者名簿にお名前がありました。保証人の方とも連絡がとれない状態が続いております。謹んでお悔やみ申し上げます。